

Data Science Symposium

データサイエンスシンポジウム

データサイエンスが拓く明るい未来



INTERVIEW

近年注目されているデータサイエンス。香川大学祭2022企画として、中・高生向けシンポジウム「地域イノベーションの創出×データサイエンスって何？」が開催されました。発案・企画された藤本理事・副学長と吉田副学長にお話を伺いました。



「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。

その原因の一つになっているのが「女性性は理系に向いていない」という思い込みから、高校で文系を選択していることです。

今回データサイエンスをテーマに選んだのは、文理を問わず興味を持っていただけたと考えたからです。特に日本では理系に進む女性の割合が少なく、工学系ではその傾向がより顕著に現れています。



香川大学 理事・副学長(非常勤)
(内部統制・ダイバーシティ推進担当)・弁護士
藤本 智子

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」

吉田「今回のシンポジウムは多くの中高生やその保護者の方にご参加いただき、当日のアンケートでもポジティブな反応が多く寄せられました。このような機会を通して、中高生のデータサイエンスに対する理解が深まり、特に女性の理工系進学に繋がることを願っています。」

藤本「日本では幼少期から「男はこうあるべき、女はこうあるべき」というアンコンシャスバイアスが刷り込まれています。女性性は理系が苦手と思われるがちなのもその一つ。保護者にも少なからずその傾向があり、女性の理系への進学や研究職を選ぶことへの妨げとなっています。その意識を変える手助けをしていくとともに、理工系の女子学生や女性研究者を支援するシステムも作っていきたく考えています。」



大学祭 2022



集めた大きな「耀」、高く耀く未来へ



INTERVIEW

3年ぶりに地域の方も来場できる香川大学祭。コロナ禍で様々な制約がある中、大成功に導いたサークル連合H.O.P.の代表 西内さんにお話を伺いました。

第74回香川大学祭2022



キャンパスコレクション2022

大学祭で最も盛り上がったのがこのイベント。事前にライブ配信でアピールするなど、今時の工夫も。

歴史ある香川大学祭を未来につなげたいという熱い思いで、大学祭はコロナ禍でもオンライン大学祭などで受け継がれてきました。今回は規模が大きくなることに加え、私が従来から大学祭未経験者であることから、今までは違ったアプローチで行いました。今回のテーマは「耀」です。学生同士のみならず、地域の方との交流から、気づきや学びという大切な光を集めて「一つの大きな耀を生み出したい」という思いと、「ともに高く耀く未来に向かって歩いて行こう」という思いが込められています。新たな取り組みとして、学生へのアンケート実施で、野外ステージや芸能人の招待など、香川大生が「今」やりたいことを詰め込みました。また、人気の高いミスター&ミスカンパスコレクションはD&Iを意識し、外見のみにとらわれないキャンパスコレクションとして開催しました。



香川大学 教育学部学校教育教員養成課程3年
私立土佐女子高等学校
サークル連合H.O.P.
14代代表
西内 愛育

私が個人的に注目していた作品展示「アンブレラスカイ」では、たくさんさんのレインボーカラーの傘を空に浮かべることで「耀」とD&Iが表現されました。この展示は、SNSや香川大のフォトコンテストでも人気を博しました。感染対策では、入場許可者にリストバンドを付けるなど工夫しました。特に、食品提供の感染対策として導入したキッチンカーは好評でした。

苦労したことも多くありましたが、たくさんの方のご協力のもと開催できたことや開催後に寄せられたメッセージを見て、この上ない達成感を味わうことができました。今後後輩たちには、学生の力で香川大学祭を盛り上げていって欲しいと思います。